アーキアエナジー

関東でメタン化目指す

地域密着の事業組成へ

食品リサイクルや再生可能エネルギーの導入に関する事業組成を手掛けるアーキアエナジー（東京・港、植田徹也社長）は、関東を中心に、メタン化を核にした食品リサイクル事業の立ち上げを目指す。植田社長は「5年間に関東で5基の施設を稼働させたい」と抱負を語る。

今年度から本格的に業務をスタートした同社は、設立にあたって生産・消費活動をカロリーベースに置き換えて考え、地域に根差した再生可能エネルギーの活用を「カロリー・リサイクル社会」の新たなスキームで事業化していく方針を打ち出している。

事業化に向けては、関連法令への対応や立地の検討、設備概要の決定・設計、事業計画の立案を経て、プロジェクトファイナンスの活用に至る手続きの課題を独自のノウハウでクリアし、地域の処理業者などと連携した事業を立ち上げる。

メタン発酵事業の他、収集運搬、廃棄管理業務、発電事業、飼料製造、PPS（特定規模電気事業者）の提携、消化液の堆肥・液肥化、農畜産業の提携なども視野に入れる。

設立以来、第三者割当増資を繰り返し、現在の資本金は8800万円。食品リサイクル事業を手掛けるゲネシス（静岡県吉田町、大橋徳久社長）を100％子会社化している。

2015年（平成27年）10月12日（月曜日） 週刊 循環経済新聞 第1269号